

中学校国語教育 理論研修会 報告

テーマ	「子どもたちにわかりやすく伝える日本語文法の指導」	
日時	令和元年 8 月 7 日(水)	
会場	千歳市立北斗中学校	
講師	村上 三寿 氏 (前琉球大学 教授)	
参加者	19 名	
研修会 の 様子		<p>講師の村上先生は昨年度に引き続き講師を引き受けて下さいました。昨年度は文学的教材を取り上げ「主体的・対話的・深い学びへとつながる授業」を通じていかに、子どもたちへ平和の大切さを伝えていかなければならないとお話下さいました。今回は部会員のみなさんの要望もあり、先生の専門の日本語文法について、学び直す機会を頂きました。</p>
		<p>まずはじめは四品詞を中心とする、基本的な品詞の分類を確認しました。私たち自身も暗記中心で学ぶことが多く、子どもたちもとかく難しく受け止めがちな文法学習ですが、基本的な分類をしっかりと確認することが大切である、ということに改めて共有できました。</p>
		<p>村上先生は今回の講義で手作りの紙芝居を多く用いられました。現在の KP 法に通じるところもありますが、ただ聞くだけではなく視覚情報にも訴え、また非常にシンプルな問いかけをテンポよく投げかけ、あっという間に研修会が進んでいきました。こういった点も参加者からは「次の授業でやってみたい」「非常にわかりやすかった」と好評でした。</p>
		<p>文法学習を進めていく上で、グループに共通な意味である「カテゴリカルミーニング」を意識することにより、文法的にも格段に捉えやすくなるというアドバイスはどの参加者も目からうろこのようでした。村上先生によりますと、「私たちはどんな複雑な語彙の形態も自然と見分ける力がついている。」「それは母語の持つ力強さであり、日本語は大変包容力のある語彙体系である。」とのことでした。こんな豊かで美しい日本語を、私たちは誇りをもって子どもたちに伝えていかなければならないということを再確認して終了しました。</p>